

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

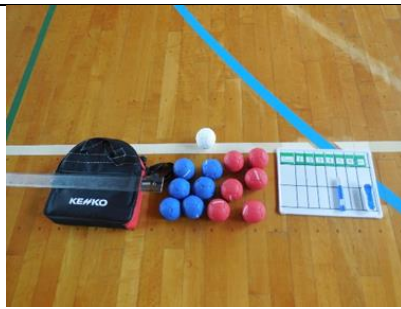
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【福岡県立門司学園中学校】

1 実践テーマ	I・V
2 実施対象者 (学年・人数)	中学校1年生 118名(男子46名・女子72名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(保健体育科) ② 行事名(③ その他((2) 地域における活動 ① イベント名(② その他(()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック種目の体験や調べ学習を通して、スポーツの意義や価値を知る。特に、体験からは仲間との協力や対話の重要性を体感させる。
5 取組内容	①「ボッチャ」の体験 日時 1回目 令和2年7月14日(火) 2回目 令和2年7月21日(火) 3回目 令和2年7月28日(火) 対象 第1学年 男子生徒 46名 場所 体育館 内容 1回目 チーム・ルール説明・試しのゲーム 2回目 ゲーム・作戦立て 3回目 リーグ戦・振り返り ②「パラリンピック」の調べ学習 日時 1回目 令和2年8月6日(木) 2回目 令和2年8月25日(火) 対象 第1学年生徒118名 男子46名 女子72名 場所 体育館 内容 1回目 オリンピック・パラリンピックの保健体育での授業 夏季課題の説明 2回目 保健体育の授業での発表会と振り返り



ボッチャの道具



得点版



カラーコーンでコート作成



ルール説明



作戦タイム



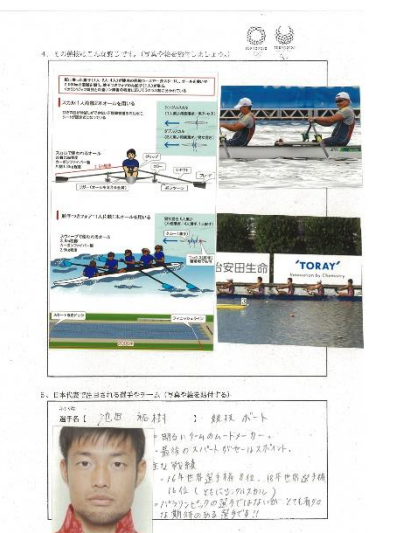
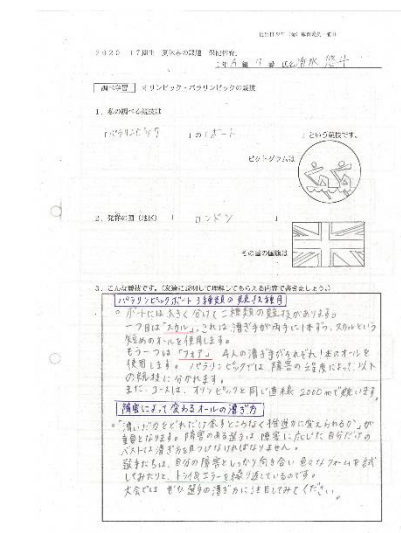
ゲームの様子



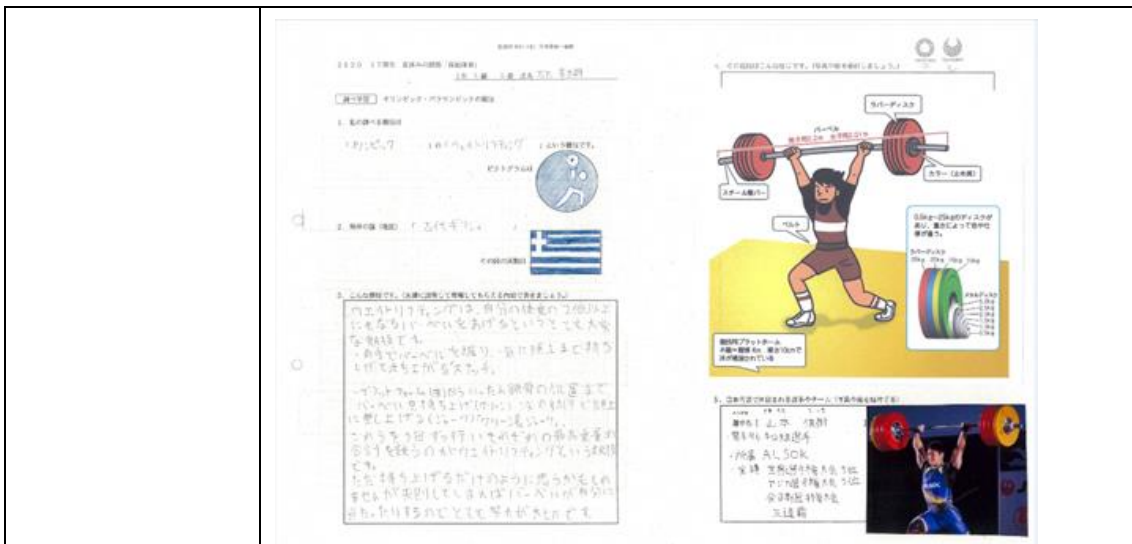
定規で計測



ゲームを通して交流



調べ学習① パラリンピック 「ボート」



調べ学習② オリンピック 「ウエイトリフティング」

6 主な成果 事前事後のアンケートより
 【ボッチャを体験する前のアンケートから】
 ボッチャという種目を知っていた生徒は全体の40%程度であった。
 知っていた生徒のボッチャの印象としては、楽しそうなどのプラスの意見とその反対はおよそ半数であった。
 知らなかった生徒は、ボッチャの道具を見ての印象として、カーリング・的当てゲームに似ていて、誰にでもできそうで簡単な印象を持った。
 【ボッチャを体験した後のアンケートから】
 楽しかったなどの意見がほぼ全体を占めていた。また、楽しい以外には、頭を使う・難しい・協力が必要・作戦の必要性などの意見が多く出た。
 また、「次にボッチャをする機会があれば、どんな工夫をする
 とより楽しくなるだろうか。」という質問に対しては、作戦を立てる・多人数で実施する・協力する・角度や投げ方を工夫する・チームで意見を出し合う・声を掛け合うなどの前向きな意見が多く出た。

7実践において工夫した点 (事業の特色)
 楽しい雰囲気づくりを重視しながらも、保健体育の授業として成立させるために、関心・意欲・態度を育成する観点や思考・判断を促す工夫をした。
 具体的にはルールの変更などを考えさせ、ボールが遠くに行き過ぎた場合など無効ボールとするなどゲームを実践する中で課題は即座に対応して、よりゲームがスムーズに行えるように実践した。
 また、最初は作戦タイムなどを設定していたが、生徒は自ら場に応じた作戦をお互いに話し合いながら実践するようになっていた。

8主な課題等	<p>クラスマッチ形式にするなどより競技性を高める工夫をすることで、より高い目標を達成することができると予測される。</p> <p>また、調べ学習などは、文化祭や保護者会など、発表や掲示することで教育効果が上がると思われる。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>中学生としてポッチャという競技の活用を考えたとき、入学直後や新学期の人間関係づくりを目的として、実施することは効果的ではないかと考えた。</p> <p>また、クラスマッチや学級活動などで行うことで、クラスのまとまりやリーダーシップを発揮・伸長させる目的としての実施を計画したいと考えている。</p>